

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790300034		
法人名	医療法人社団志誠会		
事業所名	グループホームあおば邸		
所在地	沖縄県うるま市上江洲708番地1		
自己評価作成日	令和2年 10月 5日	評価結果市町村受理日	令和2年12月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jig_yosyoCd=4790300034-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和2年 11月 21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・開設時から毎食職員が手作りで食事を提供している。調理時の美味しそうな匂いで入居者の食欲を刺激し、また一人一人にあった食事形態で提供している。 ・季節のイベントを通じて外出の機会の少ない入居者へ、季節感を味わってもらえるように工夫。 ・入居者一人一人の誕生日に手作りケーキでお祝いをしている。 ・職員間の連携、情報共有、職員教育に力を入れている。今年度は介護支援専門員更新研修に二名の職員が参加できた。 ・施設環境では同法人の工房で作成した、壁画、居室入口のレリーフ等の焼き物を設置。 ・残存機能を活かしたケアが行えている。また入居者一人一人の状態は把握し受診時には家族、主治医へ情報提供を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「共に笑い、共に楽しく協力して暮らせる居心地の良い家」を事業所理念の一つに掲げ、食事作りは、開設時から継続して事業所で3食調理し、近隣の就労事業所からの差し入れ等を活用して、利用者の力を活かしながら食事、おやつ作りをしている。新型コロナ自粛でおやつ作りも増えたり、利用者のストレス等が軽減出来るよう事業所内での活動を工夫している。利用者個々に、事故につながりそうな生活場面での事故防止対策表を作成し、職員は注意して支援に取り組んでいる。職員全員資格取得者で、職員教育にも力を入れ、職員間の関わりも「おたがいさまのこころ」で信頼関係が出来ている。母体が医療法人で健康管理では、家族、職員も安心できる環境である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設職員研修で作上げた、馴染みやすくわかりやすい言葉を使い、日々の生活で実践しやすい内容に設定。玄関に掲げ理解、実践に繋げている。新職員オリエンテーションでは理念について説明を行い共通理解し共に実践できるようにしている。入居者の出来る力、新しい可能性を意識しケアプラン作成に反映している。職員からは気が付くと自然に笑顔で交流し居心地の良い場所へとつながっていると意見があった。	開設時の理念を継続し、管理者、職員はミーティングやプラン作成時に理念を掘り下げて話し合い、具体的なケアについて統一を図り実践している。職員は待つこと、忍耐力、少しの手助けで利用者の出来る力、可能性を引き出す工夫をしている。地域には、運営推進会議、職場体験等で説明し理念の周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年イベントにはご近所に招待状を出したり、地区の夏祭りに参加していたが、今年は新型コロナの影響で面会、外出自粛が続いているため地域との交流が出来ていない。しかし散歩で外に出掛ける時に地域の方に挨拶をしたり、近所の事業所から野菜の差し入れ等がある。	地域との交流を計画していたが、今年はコロナの影響で面会、外出自粛で交流は出来ていない。近くの事業所から野菜の差し入れがある。自販機までコーヒーを買いに出かけたり、事業所周りの散歩時に地域の方と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人に実習にきた看護学生等を受け入れ認知症についてわかりやすい説明を行っている。見学者に対しても同様の説明を行い、三ヶ月に一回発行しているゆんたく広場を通してグループホームでの生活の広報を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回運営推進会議を実施。会議ではイベント、事故、人事、身体拘束、外部評価の結果報告などいろいろな事を話しあっている。昨年から他グループホームの管理者の参加や、ゆんたく広場を見た後見人の方が会議に参加したいと名乗り出て下さったりしたが、今年は新型コロナの影響で参加者が限られている。	年6回、運営推進会議は開催されている。会議では事業所の状況等や事故、ヒヤリハット等、外部評価結果も報告されている。1月までは委員が出席しているがコロナ禍で自粛の為、3月からは行政のみ参加の会議を行っている。会議録は委員には郵送し、職員にはミーティングで報告、玄関で閲覧可能な状態である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護長寿課の職員を運営推進会議の委員として協力関係を築いている。広報誌のゆんたく広場を手渡し、あおば邸の取り組みについて説明するように務めている。	市担当者とは、運営推進会議や推進会議録手渡しで窓口訪問した時に事業所の実情を伝えていく。保護課職員の来所時に、利用者の状況等を伝え情報交換している。身寄りがない生活保護の利用者の成年後見制度を利用に向けて、窓口訪問で相談している	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止は年間計画に基づき勉強会を開催。全職員身体拘束はしないという認識を徹底している。また入居者個々に事故防止対策表を作成し拘束しなくても安全に生活できるよう取り組んでいる。現在は夜間センサーを使用している方はゼロとなっている。	管理者、職員は身体拘束をしないケアの実践に取り組み、行動抑制の言葉かけはしないよう努め、気になる時は職員間で注意している。利用者個々の生活動作場面等でのリスク表を作成し安全を確保しつつ抑圧感のない生活の支援に取り組んでいる。身体拘束適正委員会は定期的に開催し、職員の研修も実施している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について勉強会を開催し、職員全体が虐待について意識し防止するように努めている。高齢者虐待マニュアルも作成し職員が周知できるよう取り組んでいる。	高齢者虐待防止対応マニュアルを作成している。職員は、利用者の名前の呼び方、声かけに耳を傾ける、食事支援で利用者の捕食、嚥下のペース等、具体的事例で学び、高齢者虐待の理解と周知に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年一回勉強会に取り入れている。現在は後見人制度を利用している方も数名いらっしゃるため制度を身近に感じ理解も深まっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み(入居相談)と入居前に、重要事項説明書に基づき入居者やご家族へ説明を行っている。その際には様々な関係機関の方へも同様の説明を行いグループホームの利用について安心してもらえるように配慮している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時には必ず職員から声をかけ入居者の最近の様子を伝え、また不安や不満がないか確認。直接言えないご家族のために意見箱を靴箱の上に設置。入居者の日頃の様子を伝えそれをきっかけにご家族の要望を聞き出せる様工夫していた。しかし現在は新型コロナの影響で面会制限を行っているため病院受診等の機会に家族への要望を聞き出すよう工夫している。	殆どの利用者が常に意思を表出可能で、日々の生活の中で要望等を聴いている。家族からは面会時に担当職員等から声をかけ聞いていたが、コロナ禍で病院受診時等で聞く機会としている。家族からは「リハビリをしてほしい」、利用者からは、食事の時の「席を替えて」などの声を出来るだけ反映させている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月一回のミーティングを実施し職員の意見やイベント案、業務内容の見直しについて聞く機会を設けている。更に管理者は母体施設や法人の会議に参加し意見を報告し運営に反映させている。	毎月のミーティング等で職員の意見を聞く機会としている。ミーティングや日々の業務の中での職員の意見等を、母体法人に管理者が報告している。早出業務マニュアルの見直しや便座の修理、事業所門扉の修理等反映させている。職員個々に係りを設け、働く意欲やサービスの質の向上に活かしている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個別に業務の悩み、体調を把握し調整を行いフォロー。イベント開催時はあおば邸職員だけの負担にならないように他部署への応援を呼びかけ派遣調整している。法人管理部においてはタイムカードの確認、年一回のストレスチェック、年二回の職員総合表で職員1人1人の評価を行い職員にとっても働きやすい環境になる様務めている。	管理者は、職員が話しやすいよう声かけしている。休みがほしい時や急な休み(時間休可能)でも休める体制作りを心がけている。職員は年2回の健康診断、年1回のストレスチェックを実施している。職員総合表で評価を行い、向上心を持って働けるよう努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間職員研修計画を立てているが今年度は実施できない月もあった。職員全体の知識や技術力のアップを目指しており、現在あおば邸の介護職員は全員介護福祉士を取得するに至っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は新型コロナウイルス、管理者の病休が重なり沖縄県グループホーム連絡会への参加が厳しかったが連絡会からはFAX、また何かあればうるま市内のグループホームと連絡を取り合い情報共有出来ていた。運営推進会議に参加して下さるグループホーム楓の管理者からの情報もあり助かっている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者は入居相談から本人と会い関係作りをはじめ、困っている事や不安な事を話してもらえよう取り組んでいる。入居前の入院先や入所施設へ足を運び顔見知りの関係作りを行っている。また入居後はじめてくる場所への不安を出来るだけ取り除けるように職員は笑顔で声かけを多くし、本人に寄り添い要望を聞き出し信頼関係を気付けるよう工夫している		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活状況や家族の苦勞、今後の不安について受容し、事業所として対応出来るよう話し合っている。特に入居間もない家族に対しては関わりを多く持ち関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いだけでなく、心身の状況なども加味しながら必要な支援を見極めている。これまで医療機関への紹介や老人保健施設、他グループホームと連携し入居調整を行っている。また入居相談にいらした段階で他に使えるサービスの情報を提供するように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が人生の先輩であるということを職員が共有している。食事を共にし時にはリビングでたわいもない会話をしたり家族の様な関係になれるよう努めている。一方的に介護するだけでなくイベントでは何か担当して頂く、日常生活でも朝のカーテンを開ける、新聞を取りに行く人など役割があり一緒に生活を送っているという実感を持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族に日々の様子を話しながら入居前の暮らしぶりを聞いたり、三ヶ月に一回発行の広報誌を郵送して生活状況が伝わる様に工夫。年末には入居者が家族宛ての年賀状を送れるように支援し家族関係が継続出来るようにしている。家族は時に本人と外食に出掛けたり絆を確かめていたが、今年は新型コロナの影響で、窓越しでの面会や電話でお互い話ができるよう工夫している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた地域をドライブすると本人がその地域に住んでいた時の思い出を職員に話して下さいます。しかし最近では新型コロナの影響で外出が難しい状況です。馴染みの図書館には二週間に一度本を借りて外出します。また以前施設に暮らしていた時の職員が訪れてくれます。会話の中に家族の名前を入れ思い出が継続するように支援しています。	新型コロナの影響で、図書館に出かけたり、母体病院での盛夏祭や地域の祭り等が中止になり支援が難しい状況である。地域をドライブしたり、利用者の好みの本等を提供して工夫している。家族の協力で馴染みの美容室には継続して出かけている。新たに把握した地域社会との関係性は記録して支援に活かしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関わり合いを多くもてる様午前・午後の体操を設けている。職員も参加しコミュニケーションがスムーズにとれるよう橋渡し役となっている。(無理強いはいしない)テーブルは横並びにし全員の顔を合わせお話ししやすいように配置。居間ではみんなが一緒にテレビ鑑賞できるようにソファの位置を工夫。入居者同士が雑談されている光景が良く見られる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時には、退居先でもあおば邸での生活の様子が分かるように思い出の写真をアルバムにし提供している。ご家族から相談やオムツや備品の提供があり、相互関係を大切にしている。退居先(病院・老健・特養)での面会や家族や関係者からの相談を随時受け入れ関係が途切れないようにしている。		
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症により意欲の低下が見られ、希望を聞き出す事が困難な方にも、日常会話で本人の思いを聞き生活の中に取り入れている。本人が希望する事を話せる方は、その希望が実現できるように職員全員で務めている。金ちゃんラーメンが食べたい、お肉は食べられない、図書館に行きたい等の希望もくみ取り支援している。しかし今年度は新型コロナの影響で外出支援は厳しい状況である。	アセスメントや本人、家族から聞いて把握している。殆どの利用者が、言語での表出が可能で日々のかかわりの中で、声をかけ思い等を聞いて把握に努めている。把握した事を記録して職員間で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や本人にこれまでの暮らしや職業などを聞き取り把握に努めている。面会時に家族や知人から本人の入居前の暮らしぶりを聞いたり、外出先でみた光景がきっかけで思いだし話したこと、普段の会話から昔の話に発展しその人の新たな情報を知りえた時には職員が共有できるようにしている。また新職員は先輩職員やカルテから情報を得て経過等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の状態やバイタルをケース記録に入力。朝と夕方に申し送りを行い、本人の状態を把握するように務めている。居室に一人で長い時間こもらないように、定期的に声かけし午前、午後の活動に参加を促し、本人の心身上・生活・心理面・出来る事に着目しその人の全体の把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全体で情報交換や本人・家族から得られた情報などを介護計画に反映している。カンファレンス時には家族や本人が参加し介護計画について一緒に検討している。また心身の状況の変化があった場合には随時計画の見直しを行っている。	サービス担当者会議に本人、家族等が参加して行われている。計画見直し時にアセスメントを実施、モニタリングは6か月毎に行われている。家族の面会時に合わせて、本人、家族が参加のもとカンファレンスを開催し、介護計画を検討している。定期見直しや状態変化時に随時見直した計画は、ミーティング等で説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や気付きは個々のケース記録に入れ、業務日誌に反映し、朝・夕の一日に2回の申し送りや情報共有を行っている。計画作成担当者は入居者の行動や発言を支援経過に細かく記入している。入院後や著しいADLの変化があった場合には介護計画の変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の際に家族が付き添いが困難な入居者には外部サービスを利用している。本人の要望で買い物やドライブ等柔軟に対応。家族要望で週2回リハビリに通う方もいたが今年新型コロナウイルス感染防止の為に行けてない。また何かあれば同法人の相談員、PTからアドバイスをもらい支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問看護や訪問美容室の利用や月に2回本を借りて図書館を利用している。又地域の祭りに参加したり、地域との関わりが途切れないようにしている。地域で活動している三味線、大正琴ボランティアの慰問もあったが現在は新型コロナの影響で受け入れが困難となっている。また母体施設に月二回いらっしゃるめだかの会が提供する布をあおば邸でも使用している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関を利用して頂いている。定期的内服薬が切れる前に家族へ連絡し受診を促し、また受診時にはバイタル表や情報提供書を発行し必要な医療が受けられるよう支援している。	利用者は、家族が付き添いかかりつけ医で受診している。受診時には情報提供書を家族に託している。受診後の結果等は、家族からの口頭や医療機関から電話や書面で受けている。定期受診の際に血液検査等も行い、週2回の訪問看護で健康管理、認知症専門医の受診など適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算や看護職員の配置はない。訪問看護来邸時には日常生活で普段と違う行動や体調の異変を報告。アドバイスを受け入居者の健康管理を把握するよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には治療経過の情報交換を地域連携室を利用しながら家族と連絡を取り合い退院後の方向性を見極めている。また入院しても職員が面会し本人や家族の話を聞いたり担当看護師へ施設での暮らしぶりやADLの情報提供を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療ニーズが高く重症化した場合、入居継続が難しい事を当初から家族、本人へ説明を行っている。その為重症化を防ぐ事を徹底し早期発見、早期治療に取り組んでいる。常にかかりつけ医、家族と話し合いを繰り返しチームで対応。家族の方針や要望を聞き、家族も十分理解した上で療養出来る病院等を紹介するよう支援している。	家族には契約時に、事業所の方針を説明し、医療ニーズが高くなった場合は他施設、又は、医療機関等対処になることの理解を得ている。利用者各自の救急搬送先の病院を家族より聞き取り、希望の病院へ搬送することになっている。利用者の状態が重症化してきた場合は、頻回に家族と相談し、確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	(15)	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回訓練を法人関係施設と協力し実施。自動火災通報装置設置に伴い、通報と同時に3つの関係施設に火災通報が届き直ぐに駆けつけられるよう体制をととのえている。また地域の方や運営推進会議委員には事前に訓練があることをお知らせし参加をお願いしていたが今年度は新型コロナの影響で参加を中止し訓練を実施予定。	年2回昼間と夜間を想定した避難訓練を行っている。避難訓練を行う際には近隣住民の方へお知らせを配布し協力をお願いしている。今年はコロナで職員だけで行なった。災害時に利用者情報等は事務所の所定の場所から、すぐ持ち出せるよう工夫している。備蓄の食料は食品庫に保管しローリングストックとなっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人が人生の先輩であり、尊重しなければならない一個人だということをミーティングや申し送りなどで確認している。慣れからの子供扱いなどあってはならないことを承知し職員も理解している。個人情報の漏洩については日々徹底され管理者が確認している。	利用者に関する情報は施設外に出ないように管理している。メモ等は用件が済んだらシュレッダーにかける、利用者の話を十分に聞き、利用者との会話では親しみのある言葉づかいであっても尊厳は守るよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを口に出来るよう、職員は話しかけたり自己決定できるように支援している。飲み物を選択して頂いたり、好きな時間に就寝してもらっている。午後のサスペンスドラマやクイズ番組が好きな方には声掛けし番組を楽しめるよう配慮。本人がどこか行きたければ行動を止めるようなことはせず見守るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつ、活動時間は決まっているがその他の時間は本人のペースで過ごして頂いている。自室で読書したり、食堂で新聞を読んだりゆっくりと過ごす場面が見られる。様々な年代の方に合わせたBGMにも気をつけている。しかし散歩に行きたい申し出がある時に直ぐに希望がかなえられない事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔、整髪の支援、入浴時には本人に着きたい服を選んでもらっている。服にこだわり日に何度も着替えをする方もいらっしゃる。女性入居者は外出時にはメイクをしておしゃれできる機会を設け華やかな気分になれるよう支援している。家族と一緒に行きつけの美容室に行く方もいらっしゃる。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の調理を一緒に行う方はいらっしゃらないが、イベント時には一緒に調理を行っている。毎日の活動の中で入居者の好きな物、食べたいものを聞きだしメニューに反映させている。日勤職員は一緒にテーブルを囲み食の楽しみを分かち合えるようにしている。入居者のリクエストに応え金ちゃんヌードルや刺身をお出しする事もある	献立は法人の管理栄養士が作成し、差し入れの野菜も活用して、3食事業所で調理している。利用者の摂食、嚥下状態に合わせた食事を工夫している。利用者は下膳やイベント時のおやつ作りに参加している。食事に時間を要する方は早めに食事を提供してしっかり摂食出来るよう工夫している。職員も一緒に食事をとっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の管理栄養士と協力し入居者の好みも取り入れたバランスの取れたメニューを作成。毎食事を記録し摂取量を確認。定時の水分補給やおかゆ、キザミ食、ミキサー食など個々に合わせて食べやすい工夫をしている。水分摂取量が少ない方は黒糖を混ぜ甘くしたり、ご飯を残しがちな方はワンプレートにする、嫌いな食材は別メニューで対応するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけ、介助、見守り、一人一人に応じた歯磨き支援を行っている。歯ブラシがうまく使えない方はガーゼ意を使用している。義歯は洗浄剤を使用、口臭のある方はマウスウォッシュを使用し必要があれば家族へ歯科受診を依頼している。またチェック表を作成し口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに排泄パターンを把握。トレーニングパンツやオムツ使用の方御トイレに座っていただき、気持ちよく排泄できるように取り組んでいる。入院中にオムツとなっていた方も日中はトレーニングパンツで過ごしトイレやポータブルトイレに座って排泄出来るよう現在取り組んでいる。	屋間は全員がトイレで排泄出来るよう取り組んでいる。夜間は入居者の身体状態や睡眠確保の為に、パッドやオムツで対応し、室内のポータブルトイレを使用の方には、安全確保の為にセンサーを使用している。排泄が自立している利用者の排泄確認には、さりげなく本人に排泄状況を聞いたり、手の動作やサインで確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認を行い、便秘時には水分補給や便秘体操を行い便秘予防に取り組んでいる。牛乳を飲んでもらったり食物繊維をとるために食事の野菜を残さないよう声かけを行っている。受診時には表で排便回数を主治医へ伝え緩下剤の調整をしてもらっている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本入浴日は決まっているが、気持ちよく入浴出来るよう声かけや対応を工夫している。また入浴拒否のある方も本人のタイミングやサインを見逃さずに入浴できるようにしている。羞恥心から一人で入浴したい方もいるので希望にそった支援を行っている。	入浴日は決まっている。一番で入りたい方、一人で入りたい方、好みの入浴セット持参等、気持ちよく入浴が出来るよう希望に沿った支援に取り組んでいる。入浴セット持参の補充は家族が行っている。着替えを準備する方もいる。入浴拒否の方には無理強いせず言葉かけや対応を工夫して支援している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠リズムを整えるため日中離床を促しているが本人の希望や状態、これまでの生活リズムによって午睡も行っている。また本人が希望する時間に就寝して頂いている。夜間眠れない時は、職員と一緒にTV鑑賞し本人が眠くなるタイミングを待つ事もある。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や副作用の一覧表を張出し、全職員が内容と効果を理解出来るよう取り組んでいる。また薬剤内容をカルテに綴り、常に確認できるよう配慮。症状の変化はケース記録、業務日誌に記載し、全職員で情報の共有化を図っている。服薬時には名前と日付、いつ服用する薬かを越えに出して確認。翌日の薬準備は日勤者と遅出職員でダブルチェックを行っている。	服薬支援マニュアルも作成している。薬は、処方時に一包化してもらい日付、服薬時(朝、昼、夕、就寝前)など確認しながら、利用者個々の薬箱で管理している。職員は、薬箱にセットする時や与薬時はダブルチェックを行っている。薬の内容や副作用の一覧表は薬棚に張り、お薬情報は個々のカルテに綴り共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食堂のカーテンの開け閉めや、新聞を取りに行く係り、食器の下膳、洗濯物干し、シーツ交換時の手伝いを一人一人が出来る範囲で役割を持ち生活出来るよう支援している。季節の行事には各自役割を持ち参加することによって張り合いや喜びのある生活が送れるよう支援している。特に訴えない方へはなるべくスキンシップを多くし声掛けを行っている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所のイベント企画として定期的なが異種する機会を設けていた。また本人が外に出たい、図書館に行きたいと希望があれば職員が付き添い散歩したり図書館へは二週間に一回出かけていた。現在は新型コロナの影響でほとんど外出できていないが、外出支援時の入居者の笑顔を職員の励みとなっている。	新型コロナの影響で、外出が困難であるため、施設内の庭を散歩、近くの自動販売機で飲み物を購入する等の外出をしている。気分転換やストレス発散が出来るよう海中道路にドライブにでかけている。家族の協力の下、美容室に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお小遣いを管理したり、施設で預かっているケースがある。コーヒーやコーラーを買いに行きたいと希望があれば一緒に自動販売機まで買いに行く事が出来る。お小遣いは本人に渡した額、使用した額はきちんと記載し面会時に後見人の方に確認して頂いている。新型コロナの流行前はかねひで等と一緒に買い物に行く事もあった。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望した時の支援、また面会の希望があれば家族へ電話をし面会依頼を行っている。しかし今年は新型コロナの影響で面会制限あるため、窓越しや電話で家族とやり取りできるように配慮している。入居者が家族へ年賀状を送るなど家族とのやり取りができるよう支援している。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの大きな窓、明るい日の光が差し込み、外の景色を楽しむことができる。施設の随所に陶器の焼き物のレリーフを飾り温かく居心地のよい空間作りに配慮。またクリスマスや正月、七夕など季節に合った装飾をしている。職員からは花壇を花いっぱいにして楽しんでもらいたいと要望も出ている。	共有スペースは季節ごとに飾り付けをしている。騒がしい音の空間とならないよう、音楽を流す時間、テレビをつける時間とそれぞれ時間を分けている。風通りがよく明るいリビングで、食事調理の香りを感じることもできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じフロアーに食卓テーブルとソファセットを設置し気分に合わせて過ごせるような居心地の良い空間を工夫している。また仲の良い入居者同士を同じテーブルにするなど楽しい時間を過ごせるよう配慮している。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族とのアルバムや写真、自宅で使い慣れた物を持参して頂くように声かけを行っている。自宅で使っていた布団や枕を持参している方もいらっしゃる。本人が居心地良く暮らせるよう机の配置を変えたり工夫をしている。本人が好きなキャラクターのぬいぐるみを飾り居室を入居者の好みの部屋になるように心がけている。	ベッド、チェスト、机は事業所に備え付けのものである。利用者の好みで椅子を増やしたり、自身のポータブルトイレを持ち込んでいる。利用者は机の上に生活に必要なものを並べたり、毎日の洋服のコーディネート揃えるなど自宅同様に暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力に合わせて職員が常に見守り、出来る事を続けていけるように支援している。食後の下膳、洗濯物干し、シーツ交換なども入居者が出来る範囲で行える様支援している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	新型コロナウイルス感染防止の為、日常的な外出支援が出来なくなっている。	外出が困難な為、邸内で楽しめるイベントを企画する。	職員で話し合い、入居者・職員が楽しめるイベントを月に一回行う。	12ヶ月
2	52	温室が広くきれいな環境だが入居者がゆっくり出来る椅子やテーブルがない。	外出自粛中の為、外の空気が触れる温室で入居者がゆっくり出来る空間作りを行う。	法人の方へ温室に置ける椅子やテーブルを調整する。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。